

氏名 柴田 貴世
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 乙第 4518 号

学位授与の日付 2020 年 6 月 30 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科
(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 Formulas to Estimate Appropriate Surgical Amounts of Unilateral
Recession-Resection in Intermittent Exotropia with Distance-Near
Disparity
(遠見・近見時の斜視角差を伴う間欠性外斜視における片眼前後転術の
適切な術量を推定するための公式)

論文審査委員 教授 伊達 勲 教授 大内淑代 准教授 假谷 伸

学位論文内容の要旨

本研究は、遠見-近見時の斜視角に差を伴う間欠性外斜視において、前後転術の適切な術量を得るための公式を求めることを目的に行った。

岡山大学病院で 2008 年 3 月から 2011 年 12 月の間に前後転術を受けた間欠性外斜視患者連続 117 症例を後ろ向きに調査した。多変量線形回帰分析は、従属変数として遠見・近見での斜視角の偏位量(°), 独立変数として外直筋後転量(mm)と内直筋前転量(mm), および手術時年齢を用いて行った。遠見での斜視角矯正量(°) = $1.8 \times \text{後転量}(\text{mm}) + 1.6 \times \text{前転量}(\text{mm}) + 0.15 \times \text{年齢} - 6.6$, 近見での斜視角矯正量(°) = $1.5 \times \text{後転量}(\text{mm}) + 1.7 \times \text{前転量}(\text{mm}) + 0.18 \times \text{年齢} - 3.8$ という式が導き出された。外直筋の後転術は近見よりも遠見での斜視角矯正量に、内直筋の前転術は、遠見よりも近見での斜視角矯正量に影響を与えていることが分かった。この公式は、片眼前後転術において適切な術量を導き出すことができるものと考えられる。

論文審査結果の要旨

遠見-近見時の斜視角に差を伴う間欠性外斜視の治療において、前後転術の適切な量を得ることが大切である。そのための公式を得ることができれば、良好な手術結果が期待できることから本研究を行った。公式を得るために 3 年間連続 117 症例を後ろ向きに検討したところ、遠見での斜視角矯正量(°) =

$1.8 \times \text{後転量}(\text{mm}) + 1.6 \times \text{前転量}(\text{mm}) + 0.15 \times \text{年齢} - 6.6$ 、近見での斜視角矯正量(°) = $1.5 \times \text{後転量}(\text{mm}) + 1.7 \times \text{前転量}(\text{mm}) + 0.18 \times \text{年齢} - 3.8$ という公式が導き出された。外直筋の後転術は近見よりも遠見での斜視角矯正量に、内直筋の前転術は、遠見よりも近見での斜視角矯正量に影響を与えていることが明らかとなった。

本研究は間欠性外斜視の片眼前後転術において適切な術量を施す公式を導き出したものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。